

生活新聞

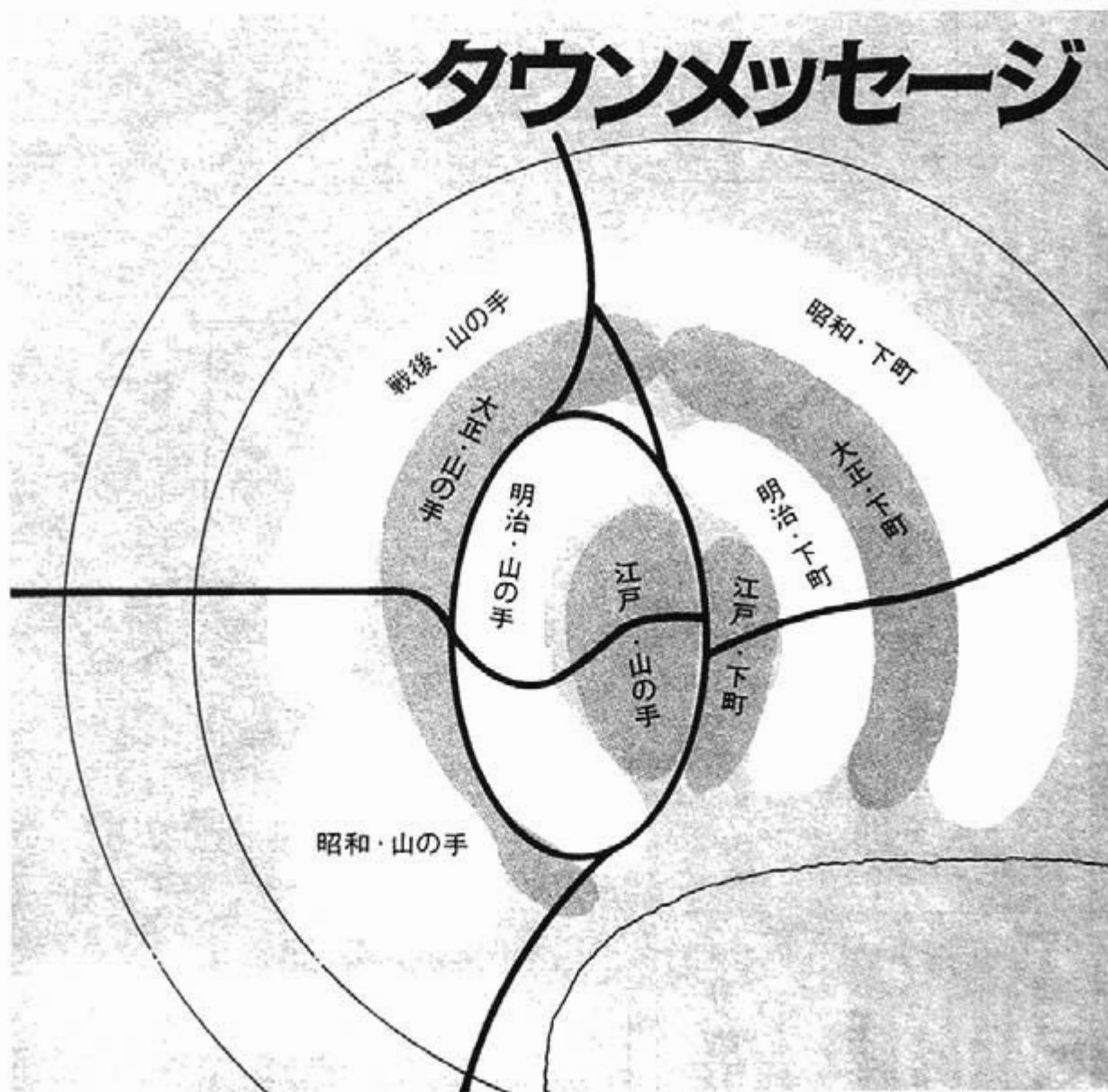
Hakubutsu Institute of Life & Living

3.29

VOL.5 1985 No.5

——街の記号変化——

タウンメッセージ



東京の街イメージは「時空間記号」の集積だ。

街の性格を言い表わすのに、住む人々の気質的な違いまで含んだ「山の手・下町」があります。しかし、江戸・明治・大正・昭和と受け継がれてきたこの区分は大きな変貌に飲み込まれ、その性格付けは甚だ不分明になりました。そこで今回は「現代の山の手・下町はどこにあり、どんな街と思われているのか」を探ってみました。詳しい調査結果は次の見聞きを見ていただくとして、まず「山の手・下町」の基本的なおさらいをしてみましょう。

地形的記号としての山の手・下町

K.Lynchは「都市のイメージ」で、都市のイメージを形成する要素として次の5つを挙げています。

- ① path 沿って移動する(道路 運河 鉄道など)
- ② landmark 目印になる(建物 看板 山など)
- ③ edge 縁、境界になる(海岸 川 壁 崖など)
- ④ node 集中 接合場所(交差点 広場 大きな駅など)
- ⑤ district 塊・面としての地域

この要素は、都市を見る人によって入れ変わります。水運に携わる人にとっては川はpath、歩く人にとってはedgeです。橋はpathでもあり、landmarkでもあります。橋のたもとに船着き場や道路が集まればnodeです。その一帯が川や運河で結ばれて水郷とか水の都といったdistrictを形成します。

東京は複雑に入り組んだ武蔵野の洪積台地と利根川の沖積低地に、江戸時代からの埋め立て地が加わったものです。境に約20mの崖を持つ台地と低地の間は坂で結ばれます。山の手・下町は坂をまたいだ上下の集落を現わす地形的な呼称です。上の集落である山の手を外れればそこはもう郊外です。

坂は山の手と下町のpathであり、districtを分けるedgeです。江戸の昔から山の手 landmarkは坂、下町の landmarkは橋と川でした。この単なる地形上のdistrictを超えて、山の手風とか下町情緒といったイメージまで形成されてきた過程を探るに

は歴史的背景に触れなければならないでしょう。

山の手・下町的風上の歴史的成り立ち

江戸から東京へ 江戸が都会としての体裁を整えたのは慶長8年(1603)の開府から。「慶長見聞集」には「慶長八卯の年、日本六十余州の人歩を寄せ、神田山を崩し南の海を四方三十余町埋めさせ陸地となし、その上に在家を立給ふ。この町のほか家居続き広大なる事、南は品川、西は田安の原、北は神田の原、東は浅草まで町続きたり」とあります。台地上(山の手)には江戸城を取り囲んで武家屋敷が定められ、下町は町方の住む所、台地の外れにある江戸城の文字通りの城「下町」でした。江戸は居住、経済空間の定められた計画都市だったので、

山の手・下町という言葉が初めて史料上現われるのは寛文2年(1662)。「江戸学事典」によれば江戸時代の下町とは「いま神田・日本橋・京橋を中心とした地域で、下町=江戸という概念もあった」ようです。文化11年(1814)に書かれた「塵塚談」には、神田や日本橋に行く時を白山・牛込辺の人を下町へ行くと言い、浅草辺の人は江戸へ行くと言ったとあります。維新までは山の手も浅草も市街地の中心である下町に対して郊外扱いされてきました。

維新から大震災へ 江戸から東京と変わっても、山の手武家屋敷跡は政治家や高級官吏の住宅街に、下町は商店 町工場の混じる庶民の町にと、居住者とその経済活動はそのまま受け継がれました。

明治30年(1897)の地図を見ると、市街地化しているのは下・中・上渋谷村を通り、内藤新宿、角筈村、池袋村から十条村に抜ける品川鉄道(後の山手線)の内側1~1.5kmまでで、鉄道との間は軍用地、皇室用地、公共用地等で木建物の密集地というdistrictでこの時点の 郊外・山の手・下町の区分を見ると、前者のedgeは品川鉄道以東1~1.5kmの線、後者のedgeは皇居を南北に貫く線に引かれているようです。

大正期に入ると江戸時代からの山の手・下町は膨張し始めます。大正10年(1921)の地図では山の手と郊外とのedgeは山手線の外側1~1.5km、徒歩にして15~20分まで西進しています。この「大正山の手」とも呼べる地域には渋谷、新宿、目白、池袋等が含まれます。同様に下町は東進して、隅田川を超え荒川までに至る、「大正下町」を形成しました。大震災から戦災へ 昭和2年(1927)「東京日日新聞」に掲載、翌年単行本になった大震災後のルポ「大東京繁昌記」の下町編には本所両国、深川、大川(隅田川)、雷門以北、日本橋、銀座界隈が、山の手編には飯倉、麴町、麻布等に交じって丸の内、神保町、大学界隈(本郷)、上野、早稲田神楽坂等があります。坂上のお屋敷街、大学や本屋街、博物館、それにビル街、活動写真、洋服屋、洋食屋といったものはハイカラであり「文化的な」匂いがする、文化的なものは山の手にあるという意識があったようです。

昭和7年(1932)には郡部82の町村を合併して東京は35区になり、中央線や郊外私鉄に沿って住宅地の西進が盛んになります。「昭和山の手」の誕生です。この「昭和山の手」は、江戸・明治と受け継がれた区分の周辺に膨らんだ「大正山の手」とは異なり、都市圏交通機関の発達を軸とする飛び地的性格を持った分散型都市の始まりでもありました。

「昭和山の手」族は、それ以前の山の手族に比べて、完全な職住分離、どの人も土地にとっての新規移住者、居住地に対する密着性の低さ、コスモポリタンの等の都会型の性格がより一層明確です。

戦災から高度成長へ 戦後の都市開発は以前から山の手にありながら、北斜面や谷間で日照に、国電私鉄の駅からの徒歩圏外で交通に、難があっても未開発だった上地に始まります。バス便が必遊の世田谷、杉並、中野、武蔵野等の「戦後山の手」です。

また、戦災で家屋を焼失したり、郊外に引っ越していった「江戸・明治・大正山の手」族の住居跡には

古いもののシブさダサさが魅力的な「遊枯」現象。

ハイテックな中にハイタッチの温もりを求める都市。

東京で今年、注目を集める街はダウンタウンリバイバル

に燃える下町の代表選手「浅草」でしょう。

でも一体、下町って何だ?そして山の手って何だ?

木造賃貸アパートが建てられました。

この程度の宅地化では膨れ上がる東京の人口と、戦後の復興・安定に伴うマイホーム欲求を満たしきれず、団地を含めた新興住宅街が都心から半径20~30kmを取り巻いていきます。さすがにこの距離では山の手とは言えず、郊外と呼ばれます。

高度成長から現在へ 昭和35年(1960)の「所得倍増計画」をもって、日本の高度成長はスタートしました。「中流」の暮らしを日差す人々の上昇志向と「隣に遅れるな」という横並びの人並み意識は、さらにマイホーム欲求を煽っていきます。都心から30~40kmを隔てた大規模な郊外化の始まりです。

高度成長期は下町にあった中小自営の工場が大企業の下請けや関連会社に取り込まれて行く時期でもあります。生産設備の拡大更新を機に、住宅が車で30分くらいの所に移動します。ここで初めて下町族は職住一致あるいは近接の商人・職人型から通勤を伴うサラリーマン化しますが、生活スタイルは旧来の下町風を受け継ぐ「昭和山の手」です。

都心から40~50km離れた郊外農業圏でも生活スタイルや通勤移動を伴わない兼業農家化、サラリーマン化が始まります。この「ニューローカル」族の売却農地が、その後も続くマイホームを求める人々を吸収します。「階層消費時代」にいう首都圏農家であるニューローカル族の経済的優位性は、都心を離れること50kmにしてやっと多額のローン付きマイホームを得たニューブ族を圧倒します。

単に地形上の違いにすぎなかった「山の手・下町」は、武家と町人という居住者の「住まされ分け」の歴史に端を発して、支配と商工サービス、ハイカラと伝統、職住分離型住宅地と職住未分化型生産流通地、革新性とふるさと性、クールと人情、職縁・学縁的と地縁・血縁的、社会を動かすものと支えるものというイメージまでを形作ってきたわけです。

タウンを人にたとえてみれば...

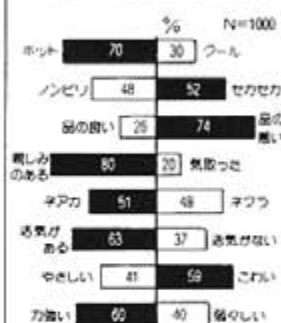
同じ山の手の街であっても、新宿と渋谷では、どこか違うと思います。東京10ヶ所の持つイメージをきいてみました。その一部をご紹介します。

男度83% おとこ街・上野。

男性イメージの強い街は、①上野②新宿③池袋④浅草の順。とりわけ上野は全体の8割強が「男街」と答えています。年代イメージでは上野は50代と答えられています。繁華街らしく、「ホット」「活気がある」という性格を有していますが、「男街らしさも顕著です。7割の人が「品が悪い」というイメージを抱いている反面、8割が「親しみのある」街だと思っ

ています。品良く気取った奴より、品が悪くても親しみのある奴の方がいい、といった下町らしい人情が表れているといえるでしょう。同じ男街でも新宿のように、「こわい・力強い」が幅をきかせるのではなく、罵声の中にも温みの感じられる街なのです。

上野

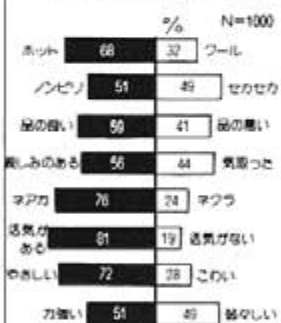


女度74% おんな街・原宿。

女々ファッション好き原宿という公式があるかのように、原宿は女街だと答える人が7割もいます。他にも女街として、青山・銀座・下北沢があがっていますが、10代の街というイメージが6割を占める原宿は、東京で一番キャピキャピしている街だといえます。

ネアカ率は76%と10地点中最高。週末の雑踏の中から聞こえてくる若い娘の嬌声を表わした数字になっています。竹下通りのクレープ屋台は品が良いとはいえないけれど、おしゃれだし、街が受け入れてくれるやさしさを持っています。人情という意味でのホットさには欠けるけれど、ティーンがわざわざやってくる。ハレの場のパワーカーは熱くなっているのです。

原宿

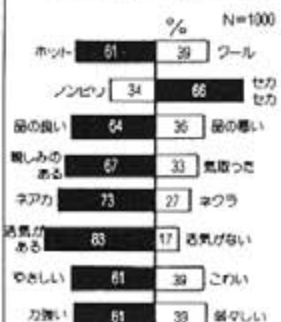


男度45% 女度53% アンドロイド街・渋谷。

男と女のイメージをほぼ半分ずつ持つアンドロイドタウン（アンドロジナスの街）としてあげられたのが渋谷と吉祥寺。渋谷の行動イメージとして、「歩いている」が46%を示しているのは、街の居心地の良さを表しているといえます。学生街でもあるので週末でなくても公園通りは人通りが断えませんが、だから「セカセカ」した感じがするけれど、それは「活気がある」からです。

男同志でも、女同志でも、カッブルでも異和感のないニュートラな街が渋谷なのです。もしかしら、街として両性具有というのは一つの理想形態かもしれません。一番のアンドロイドタウンである渋谷が、一番好かれています。

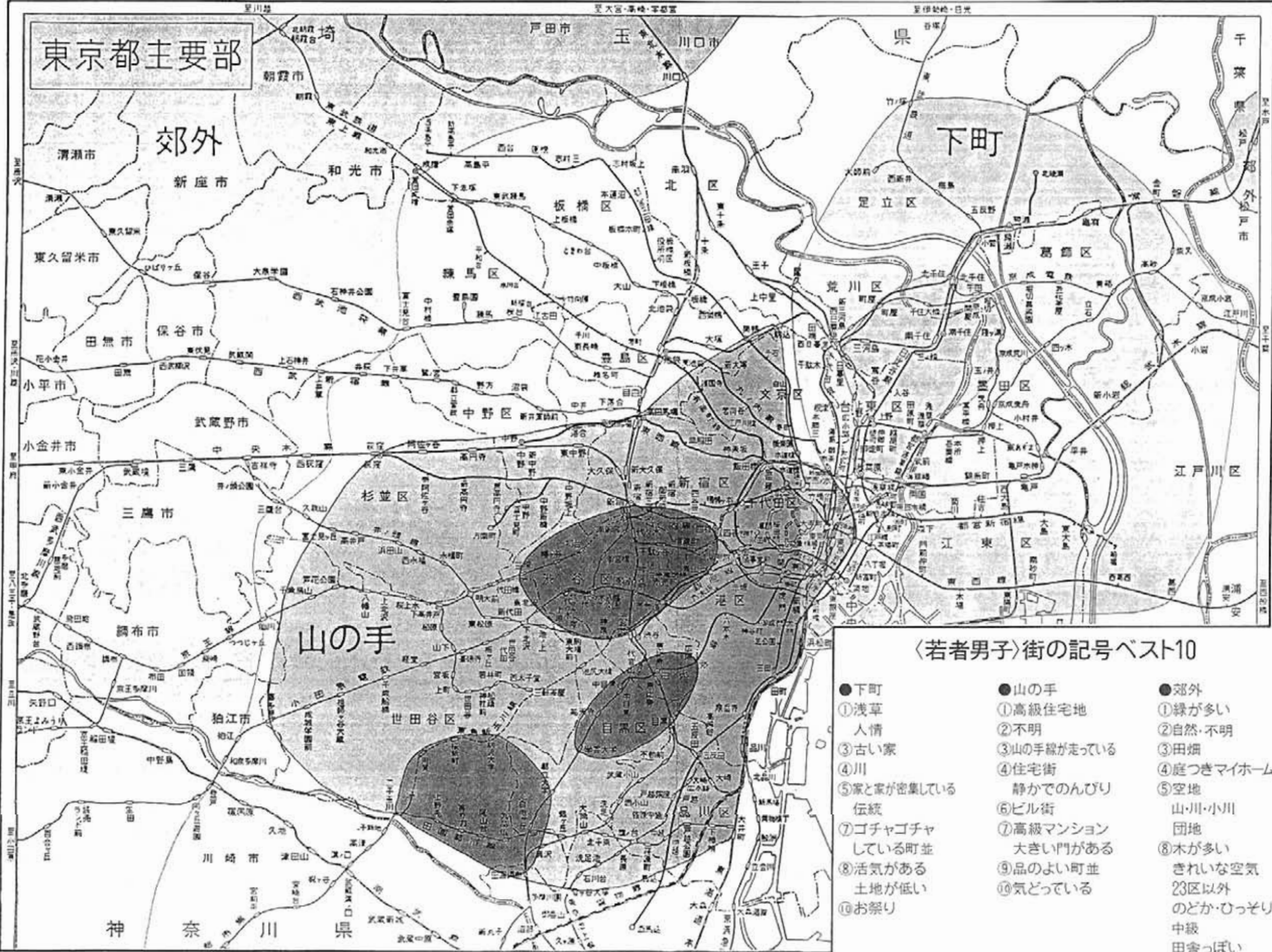
渋谷



上記調査概要は中ページと同様。他地点については、生活特報をご覧ください。

付録①「若者男子」ゾーンマップ

(注) 図中の薄い色のところが、下町、山の手、山の手、郊外として選ばれた地域(ゾーン)で、濃い色のところは、それぞれの特に選ばれた車の高い地域(スポット)を示しています。



「若者男子」街の記号ベスト10

- | | | |
|----------------|--------------|------------|
| ● 下町 | ● 山の手 | ● 郊外 |
| ① 浅草 | ① 高級住宅地 | ① 緑が多い |
| ② 人情 | ② 不明 | ② 自然・不明 |
| ③ 古い家 | ③ 山の手線が走っている | ③ 田畑 |
| ④ 川 | ④ 住宅街 | ④ 庭つきマイホーム |
| ⑤ 家と家が密集している | ④ 静かでのんびり | ⑤ 空地 |
| ⑥ 伝統 | ⑥ ビル街 | ⑤ 山・川・小川 |
| ⑦ ゴチャゴチャしている町並 | ⑦ 高級マンション | ⑥ 団地 |
| ⑧ 活気がある | ⑦ 大きい門がある | ⑧ 木が多い |
| ⑨ 土地が低い | ⑧ 品のよい町並 | ⑧ きれいな空気 |
| ⑩ お祭り | ⑩ 気どっている | ⑨ 23区以外 |
| | | ⑨ のどか・ひっそり |
| | | ⑩ 中級 |
| | | ⑩ 田舎っぽい |

付録②「若者女子」ゾーンマップ

(注) 図中の薄い色のところが、下町、山の手、郊外として選ばれた地域(ゾーン)、濃い色のところは、それぞれの中で特に選ばれた市の高い地域(スポット)を示しています。



東京都主要部

郊外

下町

山の手

「若者女子」街の記号ベスト10

- | | | |
|--------------|-----------|------------|
| ● 下町 | ● 山の手 | ● 郊外 |
| ① 浅草 | ① 不明 | ① 緑が多い |
| ② にぎやか | ② 高級住宅地 | ② 自然 |
| ③ お祭り | ③ 静かでのんびり | ③ 田畑 |
| ④ 不明 | ④ 住宅地 | ④ のどか・ひっそり |
| ⑤ 活気がある | ⑤ 高台(丘) | ⑤ きれいな空気 |
| 人情 | ⑥ 田園調布 | 山・川・小川 |
| ⑦ 古い家 | ⑦ ビル街 | ⑦ 埼玉 |
| ⑧ 川 | ⑧ 金持ち | ⑧ 庭つきマイホーム |
| ⑨ 家と家が密集している | 坂がある | 太陽がいっぱい |
| 気どりがいい | ⑩ 品のよい町並 | 遠い |
| ゴチャゴチャしている町並 | | |

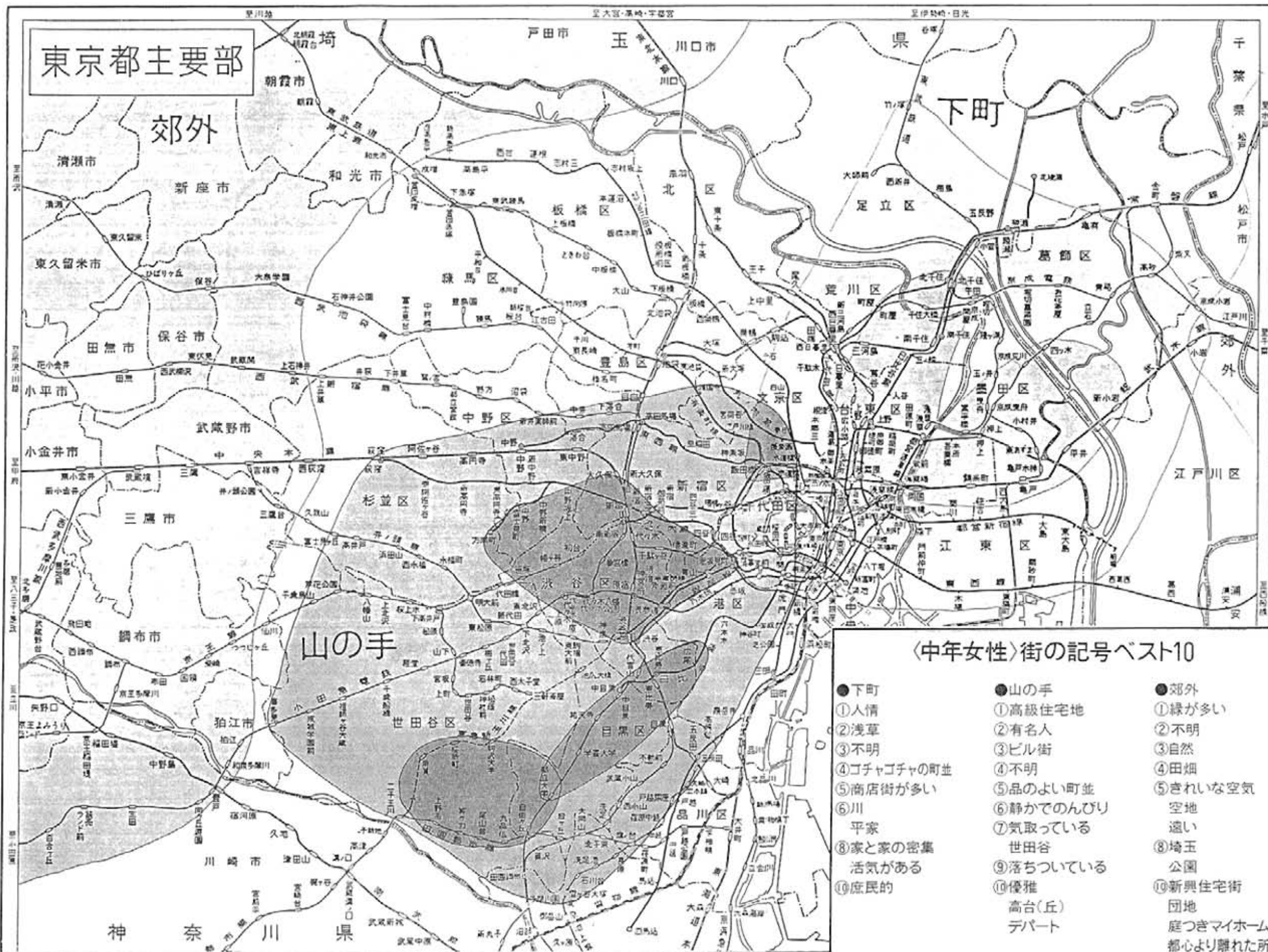
付録③〈中年男性〉ゾーンマップ



(注) 図中の濃い色のところが、下町、山の手、郊外として選ばれた地域(ゾーン)。濃い色のところは、それぞれの中で特に選ばれた率の高い地域(スポット)を示しています。

付録④〈中年女性〉プレミアムゾーン

(注) 図中の濃い色のところが、下町、山の手、郊外として選ばれた地域ゾーン、濃い色のところは、それぞれの中で特に選ばれた率の高い地域(スポット)を示しています。



〈中年女性〉街の記号ベスト10

- | | | |
|------------|----------|----------|
| ●下町 | ●山の手 | ●郊外 |
| ①人情 | ①高級住宅地 | ①緑が多い |
| ②浅草 | ②有名人 | ②不明 |
| ③不明 | ③ビル街 | ③自然 |
| ④ゴチャゴチャの町並 | ④不明 | ④田畑 |
| ⑤商店街が多い | ⑤品のよい町並 | ⑤きれいな空気 |
| ⑥川 | ⑥静かでのんびり | 空地 |
| 平家 | ⑦気取っている | 遠い |
| ⑧家と家の密集 | 世田谷 | ⑧埼玉 |
| 活気がある | ⑨落ちついている | 公園 |
| ⑩庶民的 | ⑩優雅 | ⑩新興住宅街 |
| | 高台(丘) | 団地 |
| | デパート | 庭つきマイホーム |
| | | 都心より離れた所 |
| | | 山や川 |